

事業評価報告書

1 地域課題の名称

「人口の流出抑制及び転入促進に対する有効な施策について」

2 市町村名及び評価部局課名

小矢部市役所 企画政策部 定住支援課

3 課題の概要

本市における若年層(特に女性)の人口流出が課題となっている。本市で生まれ育った人が、市の良さや魅力を感じ本市に住み続けてもらえる、もしくは本市へのUターン促進につながるためには、どのような施策が有効であるのか。

4 解決策の提言に対する評価(観点及び分析等について、具体的に記載願います。)

今回、本市が抱える課題に対する解決策として、高校生を対象とした地域愛着に関するアンケート調査結果から地域社会への積極的な参画を促す取組が必要であるとの分析結果が導き出された。

また、本市にある3つの高等学校に通う生徒達に生の声を聴くことにより、高校生が考える本市のイメージと行政側がこれまで実施してきた施策等に対する考えのギャップを埋めることも問題解決の糸口であることがわかったことは有意義な調査であったと考える。

本市では令和元年度に「小矢部市シティプロモーション戦略プラン」を策定し、その中で本市のイメージを構成している要素の一つとして「メルヘン」を掲げている。しかしながら、アンケート結果を見ると、高校生の中ではそれほど意識されていないことに驚きを感じるとともに、これまで実施してきた「メルヘン」を活用した施策は、若者層には響いていないことから、今後の施策展開の在り方を検討していく必要があると感じた。

調査研究成果によれば、地域愛着の低さと居住年数の長さは相関するわけではなく、通学時などにおける地域との関わりの深さが地域愛着形成の鍵になるとまとめられており、改めて、伝統芸能の継承を始めとする地域社会との関わりを深める施策が若者の流出減少及びUターンに対して必要であり、今後、高校生等を巻き込んだ施策が重要であることが伺える。

以上を踏まえ、本市の課題解決のための施策を今回3つ提案いただいた。地域と若年層との交流の機会を創出する施策としてはどれも有効であると考えられる。特に、「てくてくワゴンプロジェクト」については、市内には農業系と商業系の高等学校があり、生産と販売を一緒に行いながら実施できる点は、地域の特色を生かせるものと感じている。

最後に、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、当初計画していた高校生とのワークショップを行えなかった点が事業全体を通して残念に思うが、代替手段により地域愛着形成プログラムを検討し、提言をまとめていただいたことについては評価するところである。